植物

※許可をとって撮影しています（1区）

ツツイトモ

ハマボウ

ヒトモトススキ

ウシオツメクサ

マツヨイグサの一種

ハマヒルガオ

2019年7月9日の約3時間の調査で、在来種36種、外来種59種確認。
塩性湿地特有の水草を同定した結果、大阪府4例目の発見であるツツイトモ（環境省／絶滅危惧Ⅱ類VU）を確認。
汽水域の池に生える塩生植物は種自体少ない。塩性湿地は、干満の差が大きい西日本の瀬戸内沿岸に多かったが、護岸工事や埋め立てで今わずかしか残されていないし、大阪にはほかにない環境である。
日本原産のカヤツリグサ科最大の海浜性植物であるヒトモトススキ（絶滅危惧Ⅱ類VU）の大きな株がたくさんのつぼみをつけていた。

哺乳類

哺乳類としては、野ネコは以前からよく見かけたが、
ヌートリア複数目視確認、アライグマ親子の足跡確認。
小動物をチョウゲンボウが捕獲しているのも確認した。

ノネコ

アライグマの足跡

このアルバムで、初めて、夢洲に多くの野鳥が訪れ、貴重な水草が生育していることを知られた方も多いだろう。
大阪・関西万博が目指す「持続可能な開発目標」には、17の目標が掲げられているが、その基盤が、豊かな海(目標14)と豊かな陸(目標15)である。大阪は難波宮以来、政治経済の中心として発展し、沿岸漁業は佃煮を生み出し、道修町は、生物多様性の恩恵とも言える薬品流通の中心として発展した。とは言え、街の発展とともに自然が損なわれてしまい、大阪湾の海岸全長に占める自然海岸の割合は1%に満たない。
一方で、自然を回復する試みも続けられている。咲洲では埋立て途中にできた干潟に野鳥が飛来したことから、市民が野鳥の保護区の創設を市に要望して南港野鳥園が実現した。
夢洲を大阪湾の自然のネットワークの拠点として育てよう。

公益社団法人大阪自然環境保全協会・会長
（名古屋大学大学院環境学研究科教授）　　夏原　由博

編集：公益社団法人　大阪自然環境保全協会
生物多様性推進委員会
住所：〒530-0041　大阪市北区天神橋1-9-13
ハイム天神橋 202
電話：06-6242-8720
メール：office@nature.or.jp
URL：http://www.nature.or.jp/

発行：NPO地域づくり工房
住所：〒398-0002長野県大町市仁科町3302
電話： 0261-22-7601
メール：npo@omachi.org

助成：2019年度環境再生保全機構
地球環境基金

第2班　2019年11月10日　700部

夢洲生きものフォトアルバム

「夢洲は生きものの楽園！」

これは2019年6月17日から7月29日までに、夢洲で出会った生きものの記録です。
私たちは2019年1月22日、初めて夢洲に足を踏み入れ、猛禽類が飛び交い、数多くの水鳥たちが憩う情景に衝撃を受けました。
「何もないゴミの島、負の遺産と喧伝されている夢洲は、実は大阪ベイエリアでの貴重な自然遺産となるべき土地ではないのか？今、どのような生きものにとって大切な棲みかになっているのか、きちんと調べてもらいたい。」
その思いをもって、予備調査をいたしました。といっても方針を決め入場許可をいただき動き始めたのが6月。天候での中止も何度かあり、結局6月17日から7月29日までの6回、1回3時間前後というほんのわずかな時間を夢洲で過ごしたにすぎませんが、それでもこれだけの生きものに出会うことができました。その一部をご紹介します。

2019年1月22日　カジノ予定地の淡水池には多くのカモ類が羽を休めていた。

カルガモ　100羽をこえる集団で子育てをしていた。

カイツブリ
あちこちに浮巣で抱卵。

バン
繁殖適地で複数個体を確認

コチドリ
繁殖適地で複数個体を確認

チュウシャクシギ

シギの仲間

コアジサシ
5月：群れで飛ぶ姿を確認
繁殖適地で少なくとも3羽確認。
ただし巣やヒナは確認できず。
餌を運んでいった方向からは夢洲内の可能性が高い。

ヒバリ

ツバメ

メダイチドリ

チョウゲンボウ

トビ

ミサゴ

ハヤブサ

サギの群れの中にアマサギもいる。手前はホシハジロ。

2019年6月～7月　計6回調査において35種確認
写真撮影はできなかったが、セッカは繁殖適地でさえずりと姿を目視。ほかにオオヨシキリ（さえずりのみ）や、種別判定にいたらなかったが多数の小鳥類が目視できた。
6、7月は野鳥の少ない時期。この自然環境であれば、野鳥の飛来シーズン（シギ・チドリ類春の渡り4、5月・秋の渡り8、9月、ガン・カモ類9月～春）には、もっと多くの種類、個体が夢洲に飛来するだろう。

チョウトンボ

コフキトンボ

アオモンイトトンボ

ショウジョウトンボ♀

ショウジョウトンボを捕食するタイワンウチワヤンマ

シオカラトンボ

シオカラトンボ♀

クロスジギンヤンマ

ヤゴ（種未確認）

クルマバッタモドキ

トノサマバッタ（幼虫）

マダラバッタ

ショウリョウバッタ（幼虫）

クマゼミ

モンシロチョウ

コハンミョウ

オニグモ

ナガコガネクモ

昆虫は7月梅雨明け後2回調査。両日36度を超す高温につき、それまでの調査時より昆虫が少なめと感じたが、各2時間程度の調査で47種確認。この時期トンボとバッタ類が大変多く、咲洲や舞洲から飛来しているのか、渓流に棲む大型トンボ類も確認された。なお梅雨以前にはチョウ類が大変多く見られたが同定できず。

クモ類が大変多い。いろいろな場所で昆虫類が捕獲されていた。ナガコガネグモは巨大だった。カエル類もあちこちで見かけた。